

「不登校支援ハンドブック」の活用

～高知市の子どもたちの未来のために～

高知市教育委員会から、子どもたちや保護者、そして先生方の笑顔のために、不登校支援ハンドブックが発行されました。2月8日に開催されました「不登校支援に関する連絡会」にて、活用の仕方についての交流がありましたので裏面に一部ご紹介します。



P125 のコラム「元気になったトマト」は、もう読まれましたか？

読んだときに胸がきゅっとなります。教職員のみなさんで、言葉だけではなく、感情としても共有して欲しいです。

※ 巻末資料・ワークシート(pdf形式, エクセル形式, ワード形式)は、高知市立学校教職員ポータルサイトからダウンロードできます。学校や学級の状態に合わせて工夫してご利用ください。

不登校支援ハンドブック活用のコンテンツ、パワーポイントもあります。

この本の使い方

教職員みんなで確認

同じ資料で



同じ場で

職員会

学年会

不登校支援委員会



キーワード

誰が

何を

どのように

具体が共有でき、取組がグンと進みます。

個人で読み込む

① 目次で知りたい事柄を見つけ、そのページを開きます。

2 休み始めの対応ポイント「3日が分かれ目」

気づきのアンテナ 迅速な支援 信頼関係は命綱

これだけは押さえよう！

- ① 朝の欠席連絡電話でのサインを見逃さず、欠席につながる情報を収集
- ② 遅刻・早退は不登校の前兆と考えるべし
- ③ 保護者との信頼関係を保てる電話での応答を

② キーワードとなることを確認します。

③ 「これだけは押さえよう！」を読んだら大筋が理解できるようになっています。

1 休み始めの適切な家庭訪問で欠席の長期化を防ぐ
どの子どもにも、休み始めはあります。「食い止められる」もいえる鍵は、最初の3日間の対応にあります。子どもたちに窓口は「担任」です。子どもは一日休んでも、再登校には不安な理由に関係なく3日連続して休んだら家庭訪問することを数年前が4割も減少したとのことです。ポイントは「理由に関係なく」(富, 2020)。

プラスアルファ

もっと詳しく知りたいときに参考文献も含め、じっくりと読んでみてください。





私なら、まず、ここから共有したい

子どもが行きたくなる 学校づくりカレンダー

小 P8, 9
中 P10, 11

不登校支援のベースは、「あたたかい学級づくり」です。

4月のスタートがしっかり切れるよう、来年度の計画を今から立てたいです。職員会で毎月確認したいページです。

休みはじめの対応ポイント「3日目が分かれ目」

P60~65

声や態度は保護者に伝わり
ます。何かが起こる前に、保護者とつながっている大切さを共有しておきたいです。電話対応について、4月の新メンバーと一緒に、職員会でロールプレイングをして体験したいです。



子どもとつながる 家庭訪問

P66~70
P192, 193



若い先生に役に立つと思います。
何のための家庭訪問か、どうやったら子どもや保護者と信頼関係を築くことができるかの参考にしたいです。オーダーシートも利用してみたいです。

人の中で人は育つ (鹿嶋真弓先生のコラム)

P21



いじめがないあたたかい集団をつくるために、このコラムにあった『引き下げの心理』について、生徒にも教員の思いを交えて話をしたいです。

校内での居場所づくり

P132~137



居場所を求めている子どもがいます。学習保障もしていきたいです。別室対応について、いつ、だれが、どのようにしていくか、ハンドブックをもとに明確にしていきたいです。

引継ぎシート

P182

中学校への引継ぎの際、このシートを活用し、中学校と共に確認をしたいです。特に、効果があった支援や、本人の資源の欄を活用したいです。